

農村計画研究部会 平成30年度 討論集会
平成30年度 農業農村工学会全国大会 農村計画研究部会企画セッション

1. テーマ

歴史の中に生きること

2. 企画セッションの概要

滋賀県には、近江八幡市権座や高島市針江などの重要文化的景観の指定を受けた農村や多くの伝建地区など、歴史の流れの中で生きる地域が存在している。景観法による対応など制度的な整備が一段落した今、歴史の中で生きる意味や課題を再確認するとともに、かけがえのない地域をどのように次世代に継承するのかを検討する。

3. 日時

平成 30 年 9 月 4 日(火) 10:20~12:00 (大会 1 日目)

4. 会場

京都大学吉田キャンパス 2階 W-214 教室 (第 2 会場)

5. 内容

(1) 開会挨拶：守田秀則 (岡山大学)

(2) 話題提供

① 大西實 (権座・水郷を守り育てる会)

「権座の取り組みについて：宝物と宝探し

～素晴らしい風景が農業を守る「水郷を活かした農の里づくり」

重要文化的景観「近江八幡の水郷」の一部、西の湖(琵琶湖の内湖)の島「権座」の水田では連綿と耕作が続けられてきた。本報告では、「近江八幡の水郷」が重要文化的景観に選定されたことを契機として、権座が属する白王町を中心に進展してきた権座・水郷を守り育てる活動について、イベントなどの集いの機会提供がUターン者の誘致や地域磨き、郷土愛をもつ人づくりにつながり、むらづくりの基盤をつくってきた経緯を紹介する。

② 奈良俊哉 (近江八幡市教育委員会)

「重要文化的景観「近江八幡の水郷」の経緯と展望について」

滋賀県近江八幡市で重要文化的景観「近江八幡の水郷」として指定されている水郷の以前の姿やヨシ生産との関係について、さらには昭和 30 年代から始められた農地造成のための干拓事業の中で水郷が残されてきた経緯について紹介する。また、それらの風景が文化財のひとつである重要文化的景観として選定されるまでのプロセスについて紐解き、最後に今後の展望として合併した旧安土町域の追加指定等に言及する。

(3) 総合討論

コーディネーター 落合基継 (早稲田大学)

全体司会：服部俊宏 (明治大学農学部)